

秋の研修会記録

学校図書館のPR実践講座～あらゆる機会をフル活用する

平成30(2018)年11月27日(火)10:00～16:00

会場： 県立千葉女子高等学校大会議室 (注1)

講師：^{にかみこうじ}仁上幸治氏(図書館サービス計画研究所代表)



▲講師

—午前：講演—

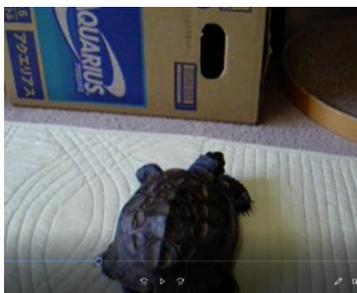
【0】はじめに

まずこの写真を見てください。

17年前、新宿西口の路上に落ちていたカメです。最初は水槽に入れっぱなしだったのですが、ちょっと出してやったらすごい走り回るので、それ以来、放し飼いにしています。それまでは、カメが人の声を聴き分けたり、遊んでくれてせがんだりするなんてまったく想像もできませんでした。しかしそれは水槽に入れっぱなしだったからですね。びっくりでしょ？

みなさんもカメは、爬虫類だし下等動物だと思っていませんでしたか。ありますよね。誰だって物事を理解して世界を認識していくわけです。固定観念を持つことは避けられません。

さて、今日のテーマです。一番伝えたいことは「固定観念を捨てる」ということです。自己紹介としてクサガメの動画をみなさんに見てもらいましたが、動画はツカミに効きます。クサガメの動



画は、授業でも講演でもいつも大活躍です。最初に何か動くものを見せると人間は、目玉が吸い寄せられます。特に最近の学生は、マウスのカーソルを動かせば目がついてくる。それくらい動くものを追尾してしまう。動画は授業にも、自己紹介にも使えます。みなさんも僕の家にかメラがいることは、覚えてくれましたよね。数年後に今日の研修の話になったとき、「あ、あの時の！」となるはずですよ。講演の内容を覚えているかどうかは別としてね(笑)。ある人と会ったという記憶が残るのは、強烈な印象があったからです。今日のカメの話は言葉だけでペラペラ言っても伝わらないでしょう。動画の威力ですよ。

普段、大教室の、大講堂の、大先生のありがたいお話を拝聴する形の研修だと、ノートをとらなきゃということが多いと思います。そうじゃなくて、見ることに、体験することに、自分で考えることを重視した研修のやり方もあるということをお伝えしたいんです。

一番後ろの方、スライドの文字、見えますか？結構大きく作っているつもりです。スライドは一番後ろの人に見えるのが、最低条件です。

今、トサケン(図書館サービス計画研究所)の代表をやっています。その前は帝京大学の教員をしていました。さらにその前は早稲田大学図書館の司書。非常勤講師はもう20年もあちこちでやっていますので、どこかでお会いしているかもしれません。法政大学、亜細亜大学、東京家政大学、桜美林大学、和光大学、玉川大学。今年から、日本女子大学と専修大学。来年は学習院女子大学でも授業を担当することになってます。

あとで名刺交換しましょう。ところで、名刺持っていますか。名刺は作らなくてはダメですよ。難しいことじゃないです。自分で作れます。作らない理由はないですよ。

第1部 イメージ革新の実例

1. 図書館のイメージを変える

「やる気とアイデア」

まず「図書館のイメージを変えるにはどうしたらいいのか」という話をさせていただきます。

事例からいきましょう。今日は自分がいろいろ実践してきた中からご紹介したいと思います。まず早稲田の高等学院での実践から。80年代後半から7年間、付属高校にいました。そこで縁があり、高校で話したり発表したりする機会がありまして、今日は当時の研修会で配布した実物を持って来ていただきました。タイムカプセルからでてきたみたいですね。当日お話した内容は、91年の『学校図書館』で報告しましたので見てください。(注2)

早稲田には大学全体でみると、30の図書館があります。そこに中央図書館から司書が出向します。どこに行くかわからないのですが、このときたまたま付属高校に行かしてもらったのです。最初は嫌でしたが、やってみるとメチャメチャおもしろい。中央図書館には職員が百何十人もいるので、何かアイデアを提案しても会議、会議で、何個か通らないと実現できません。しかし、付属高校に行ったら自分がチーフで、自分がやると言えばすぐできちゃう。要は自分のやる気とアイデアがあればいくらか改善できて、その結果がすぐに生徒に届いて、反応がダイレクトに來ます。その感じは、ものすごく貴重なものだとわかりました。大きいところにいると、この感覚を忘れてしまいます。

付属高校ではオリエンテーションビデオを作りました。それまでは1クラスずつ生徒を呼んで来てしゃべっていたのですが、何度もしゃべるのは面倒くさい。ということで生徒が最初に來たらまず10分くらい映像を見せることにしました。VHSで図書館の外観からツアーしていくものです。お金がかかって大変そうと思われるかもしれませんが、でも、撮影用のカメラが、学校にあったんですよ。脚本は元文学青年の数学の先生が「脚本書いてあげようか?」と言うのでお任せしました。それから、映像編集マニアの職員の方に回して、音楽を入れてもらい、あっという間にビデオが完成しました。今はスマホで撮れる時代ですよ、敷居がどんどん下がっています。

コミュニケーションのチャンネルづくり

僕が付属高校で初めにやったのは、投書コーナーを作ることです。コミュニケーションのチャンネルを作る。壁さえあればできます。

それからリクエストコーナーを作りました。それまでは欲しい本の有る生徒が、そつと事務室に「これ買ってもらえませんか」と、持ってきてい

た。それでは他の人にはわからないので、コーナーを壁に作って公開し、「買う・買わない」を知らせるようにしました。リクエストコーナーを宣伝ツールとして使うわけです。もちろんプライバシーに配慮して、名前はペンネームでOKになっています。

投書コーナーには、図書委員が少なく困っているという話が來ました。そこで(男子校なので)女子校との交流会を設定しました。そうしたらどうなったと思いますか? 図書委員の希望者が殺到。日ごろ図書館に來もしないくせに、外から女子生徒が來ると、自分が図書館の司書みたいに自慢話をして、ここはこうだと説明してくれたりするんですよ。「そんなの、君使ったことないだろ!」みたいな話ですけど、それでいいんです。そうやって見学会が活気づいて、交流会が盛り上がる。生徒たちは喜んでやる。

一番力を入れたのは「イメージを変える」ということです。なぜかという、生徒たちは図書館というものに固定観念を持っているからです。前任者はいかにもな昔風の図書館運営で、もったないくらいの古臭いやり方していたんですね。だからほとんどの生徒たちは図書館に寄り付かないで、小説好きな固定客ばかり。国語科帝国です。これを変えようと思ってイメージチェンジの目標を立てました。

利用者・管理者を味方に

イメージ革新。とにかくイメージを変えようということで何をしたかをご紹介します。これは指導とサービスのなかで、利用者、管理者を味方に変えていこうということです。利用者は2割、8割は一度も來ない。これを変えるためには、図書館のイメージを変えなければいけません。

何よりも大事なものは、選書です。面白い本を入れることです。最初に当時話題の『東京女子校制服図鑑』を入れました。男子高生が、食いつく、食いつく(笑)。破いて持って行かれると困るので、カウンターに取り置きにしました。借りていった生徒は自分一人で見るとはなく、教室でしゃべる。

「こんなのが図書館に入ったよ!」それがクチコミで伝わって、生徒が次から次へと來る。またマンガはだめと言われましたが、学習マンガならいいだろうということで目立つところにドーンと出しました。みんな手に取りますよ。マンガだもの。『別冊宝島』これも衝撃的でした。これは表紙のイラストが大事。中身は真面目なんですよ。

この経験で「選書基準をめぐる冒険」を2本、『現代の図書館』に書きました。(注3)(注4)

2. オリエンテーション・ガイダンス 映像活用の効果

「オリエンテーション・ガイダンス」や「利用案内」も変えました。

まずオリエンテーションは、先ほどお話したように動画を作りました。そして動画を見せた後で、スライドショーで説明をしました。また映画、テレビドラマを録画しておいて使ったりもしました。みなさんは、著作権大丈夫?と思うでしょう。学校教育機関の中で、個人で録画した映像を教材として上映するのは許諾不要でOKなのです。著作権は大丈夫。許諾は要らない。だから「著作権」をできない理由にしない。たとえば、『パイレーツ・オブ・カリビアン』が流行った時には、テレビで録画しておいて一部をつかみとして見せました。

ところで、みなさんはアメリカ図書館協会(ALA)のREADキャンペーンをご存知ですか。アメリカ図書館協会は映画のロードショー公開に合わせてスターをキャラクターに起用してポスターや、しおり、キーホルダーを作ります。ほら、欲しくなっちゃうでしょ。ポスターが語り掛けます「本読もうぜ」。学校の先生がいくら「君たち本読まなきゃだめだよ」と言っても無理です。「あっ、オーランド様が本を読んでいる!」「キーラ・ナイトレイが本を持っている!」というびっくり仰天が大事なのです。アメリカに行くと、このポスターが小さな町や村の図書館にも貼られているわけです。

キャッチコピーも結構いいんですよ。スター・ウォーズのR2D2。かわいいでしょ。彼にとっては、メインコンピューターに指っこむことが学習なんですよ。人間もそれで勉強が済んだら楽ですね。次は宇宙船の運転手のチューバッカです。本なんか読まないかと思いきや実は読書家で、待ち時間に本を読んでいます。一番本を読みそうなのがヨーダ。何万年も生きているから説得力も全然違います。標語もなかなかいいですよ。

「READ! and the force is with you.」(読み給え。さすれば、フォースは君のものじゃ)。いい感じ。

アメリカ図書館協会のグラフィックカタログはみなさんもダウンロードできます(注5)。PDFで20ページから30ページ…ユアン・マクレガーやアカデミー賞をとったヒラリー・スワンクなど大スターが続々登場。こういう感じです。これを使えば図書館授業のつかみはばっちり。

図書館へ行こう!一期待感を持たせる

「図書館の便利さ。快適さ。図書館に行きたいと思わせたか。図書館員の専門性を印象づけたか」これが僕たちの作ったオリエンテーションのガイドライン、基準です。「長年やっているから」「先輩に言われたから」ではなく、基準を満たす方向に努力を重ねていくことが大事です。上履きや、飲み物を注意するのではなく、ガイダンスが終わったら、「図書館へ行こう」というモチベーションを持たせたかが大事です。注意事項ばかり並べると「うるさいなあ」となっちゃいますよ。

そしてもう一つ大事なことは、図書館員の専門性を印象づけられたかです。「資格を持ったプロの人がいる」ということを伝えられたかが大事なのです。倉庫の管理人みたいな口うるさい人がいるのではなく、「プロの人が援助する」ということを、伝えなければいけない。つまらないことばかりを言わない。

エデュテイメントー楽しさの中で学習を

「エデュテイメント」の話をしましょう。「エデュテイメント」はエデュケーションとエンターテイメントの合体語ですね。これが大事です。楽しい感じで。エンタメでやらなきゃだめなのです。むずかしいことを眉間にしわを寄せて話すのではなく、楽しくさせなきゃ。(注6)

最初に驚かすことが大事です。二番目に対話形式。三番目は旬の話題。そして四番目、ワクワク感

まず出だしが大事です。出てくる時から演出しなきゃ。もちろん服装、髪型も大事です。「いかにも図書館員」ではダメ。最初に自己紹介なんかしない。とんでもないことから始めるんです。

それから、対話形式。最初に僕が言いましたよね。「後ろの人、見えますか?」という問いかけ。いつも実践していることです。対話型をわざとやる。知っていても、問いかける。やってくださいね。

旬の話題も大事です。さっき話したスター・ウォーズも、今は知っている人は5割を切っています。ヨーダとか見たことない。旬の話題はすぐ古くなります。だからいつでもネタを仕入れておくこと。学校の創立者の話とかしっちゃだめですよ。「図書館は、いいとこだ。楽しいな。明日行こう。」と思わせて、スパッと話を終わりにする。

意外性が第一関門です。図書館員のステレオタイプのイメージを裏切ることが必要です。ウンザリ感より期待感。

さて、これは僕が89年に作った利用案内です。プリントでは色がありませんが、紙の質もわざと少し柔らかめのマット紙にし、クリーム色の紙を選びました。書体もゆるく、やわらかくしてあります。



▲利用案内

「ハイテク、フル装備」どうせ生徒は隅々までは読まない。「図書館ぼくしない」ことが大事です。「貸し出しはこうなっていますよ」というルールの説明も「本の背中そろえてもってきてね。バーコードでバシバシとやるよ。」といえはわかるでしょ。注意はさりげないところにいれていくのが良いですよ。頭から言わない。

それから、ずっと古い全集ものの本が書架を占拠している図書館だったので、AVをどんどん入れました。当時はレーザーディスク全盛時代。VHSもたくさんありました。「いろいろなメディアが有って、楽しい映画もいっぱい有るよ。ハリウッド映画もいっぱい有るよ。楽しいところだよ」とアピールして集客を図りました。

大事なことは、図書館は「調べる・探す・質問する」ところで、小説を読むばかりではないということです。調べられるということを発信していき

ました。最後のページでは、「参加がコミュニケーション

の基本だよ」と言って、図書委員を募集しているわけです。「自治は権利。権利は責任ある主体的行動から」。堅いなあ。でも「君たちが決めていいんだよ」と、生徒を主体にして運営していますよという印象を与えることが大事なんです。「静粛・整頓・清潔」三つのSです。

3. 味方を増やすコミュニケーションツール～生徒・先生を巻き込む館内マップ、リクエストカード、投書箱

館内マップも作りました。不思議なもので、きちんとしたものがわかりやすいかというところでもない。文字ばかり、活字ばかりで整然としすぎたものはつまらない。絵は手描きで説明を入れることにしました。



▲館内マップ

図書部の先生にもいろいろな先生がいるでしょ。国語の先生ばかりじゃない、体育の先生とか。あるとき美術の先生が「図書館は頭の運動場だからね」と言った。「ナイス」メモして、次の号に使わせてもらった。何気ないところにヒントが転がっている。それで「シーン」も使いました。みなさん、知っていますか？マンガを読むと「シーン」とあるでしょ。昔は静けさを文字で表現できなかった。静けさをどう表現するか、漫画家は悩んでいたわ

け。「シーン」は、手塚治虫が発明したと言われて
います。「シーン」という音が聞こえたらまずいけ
ど、この字を見たら、静かにしなければいけない
という文法は共有されているでしょ。こういうト
リビアも書き込んで、ちょっと賢くなるようにし
てあります。

いろいろな生徒を抱き込み、先生を抱き込んで
作る。今どきの人たちも、ちょっと読む気になる
でしょう。

新聞コーナー、雑誌コーナー。そして図書委員会
室を作りました。すみっこに、集まるコーナーを
作ってあげると、休み時間にみんなここに集まっ
て来て「なんかやろう」「イベントやろう」とか相
談しているわけです。

それから「コンピュータ、ピッピッとやる」こん
なことも当時は斬新だった。映画『耳をすませば』
では、読書履歴カードからプライバシーがダダ洩
れだったでしょう。そういう時代でした。

館内マップを立体で書いたところも、当時斬新
だった。遠近法が狂っていてもいいんです。気に
せず立体にしちゃう。

それからリクエストカード。上に個人情報。下に
リクエストの書誌データを書かせて、キリトリ線
で切って回答を貼り出す。公開の回答を他の生徒
が見ると「こんな本をリクエストすると入れても
らえるんだ」と思って釣られてリクエストするよ
うになる。リクエストの回答自体を広報ツール・
情報ツールとして使いました。2、3日で答えを
出します。

投書箱～予算ゼロでできるリテラシー教育

一番力を入れていたのが投書箱です。何がうれ
しいとって、毎日10通とか15通とか入って
くる。ザクザクくる。みなさん「そんなのやっ
つて来やしないよ」と思っているでしょ。顔に書い
てありますよ。そんなことはない。回答を剥がし
て持っていかれちゃうからコピーして貼る。原本
は事務室で取っておく。持っていかれても大丈夫、
「全部、匿名OK、翌日回答」「具体的、現実的、
建設的な声をドシドシお寄せください、マジにね」
これをやると、来る、来る、すごい勢いで来まし
たよ。夕方仕事が終わってから読む。いろいろな投
書が来ました。「こうすれば盗まれません」とい
うイラストを添えて、雑誌を購入してほしいとい
う投書もありました。これは雑誌を入れるとか入
れないとかいう問題とは別に、コミュニケーション
のツールとして楽しんでいるんです。「選書基準が

あるから入れられない」と真面目くさってタテマ
エだけで応えてはダメ。冗談には冗談で応える。
「かまってちゃん」がたくさんいるんです。

人生相談も来ます。「悩めます。人間やめたい
です」答えが聞きたいんですよ。「あの野坂昭如先
生もおっしゃったように、みんな悩んで大きくな
った。(当時コマーシャルではやっていた。)本の中
の一行があんたの命を救うかもしれませんよ。
読んでみたら」さりげなく本を勧めて終わってい
る。何度も言いますが真面目に答えちゃダメです。
こんな大問題、そもそも答えようがない。数行だ
けだから。他人の投書に文句を書く人もいます。
図書館に来ると、最初に投書コーナーチェックし
ているんですよ。他人の投書と回答を見て、それ
に対する意見を出してくる。「最近不真面目な回答
が多い」と言ってくるので、その文章をそのまま
いただいて、「最近あそこに張り出されている投書
の質問、意見を見ると、あまり的確に問題提起さ
れていないと思う」と上の文章そのままいただ
いて返す。「Nさん、質問に対する切り返しが見事
です」とフォローしてくる。自分の意見を書けとい
う建前なので、「お客さん、あなたの質問は？」と
ツッコミ返す。余計なやりとりでも、これで活性
化するならどんどん取り込んでしまえばいい。み
んながここを見ているので、これ自体が公開の情
報リテラシー教育じゃないですか。人の意見を読
んで、どう返すと角が立たないとか、笑ってもら
えるとか、納得できるとか、そういうコミュニケ
ーションの技術ですよ。ついでにときどき本の宣
伝として書誌データも入れてあげたら、読書教育
にも繋がっていく。「担当Nさん、文通して下さ
い」答、「してるじゃないですか」(笑)。かまっ
てほしい生徒たちが続々と集まってくる。味方を作
るコミュニケーションとしてやる。図書館の利用
促進、読書促進のためにもやる。情報プロの図書
館員の存在感を示す手段として活用しましょう。

「広報活動は、お金かけなきゃできない」ではな
いんですよ。お金をかけずひと工夫する。工夫す
る気さえあれば、できばえは段違い。やりましょ
うね。約束です。投書コーナーの意義は、生徒との
直接対話で味方を増やすということです。読書で
はないんです。読書冊数の問題に限定する必要は
ありません。自分を応援してくれる人を増やすこ
とが大事。情報リテラシー教育の活きた見本が壁
面と対話力さえあれば誰でもすぐできる。予算無
用でこんなに効果が高い。やらない手はない。

しおり～小さなメディアの大きな効果

「しおり」についてはいろいろと言いたいことがあります。(しおりに書いてある)「返却期限日」を、みなさんはなんて呼んでいますか? 「返却日」と言っていないですか? だめですよ。返却日と書くと、気の弱い、まじめそうな生徒が言うてくるでしょう。「この日に返さないといけないんですか?」って。聞かれたことがありますよね?

「返却日」ではなく「返却期限日」と書くべきです。返却日は返却された日あるいは返却処理した日という意味で使っているでしょう。基本用語を正しく使わないからおかしくなる。「返却予定日」とか言う人もいますが、予定するのは図書館側じゃなくて借りた本人ですよ。おかしいですよ。

話はそれますが、公共図書館のカウンターに「貸出」「返却」と書いてあって、そこに「かりるところ」「かえすところ」とふりがながふってあります。「貸出」のところに「かりる」とふりがながふってある。漢字を習いたての小学生が勘違いする。『貸』は、『かりる』と読むんだ」と思ってしまいますよ。いいんですか? 「貸出」の主語は図書館、返却の主語は利用者ですよ。主語違いのことばが並列で並んでいるなんて変じゃないですか。しかも業務で一番よく使うことばがこんなに文法的にダメでは教育的に良くない。

8面あるからいろいろ書ける。「静粛に」より「シーン」。本を破っちゃう人がいるので、「そりゃあないよ」。真面目にマナーをキャンペーンしていくよりこの方が伝わるかな。どうです? さりげなく、ユーモアで包んで。

「しおり」は結構馬鹿にできない。小さなメディアですが、意外に大きな効果があります。小さいけれど、繰り返し目にする。説教臭くなくて絵が魅力的ならば、繰り返し見る。「しおり」の効果をもっと考えてみませんか?

こういう大事なポイントが書いてあるのがこの本です。『図書館広報実践ハンドブック』(注7)。大学の人たちがメインで作っていますが、高校図書館でも公共図書館でも役立つはずですよ。

広報紙～図書館改善の成果をデータでアピール

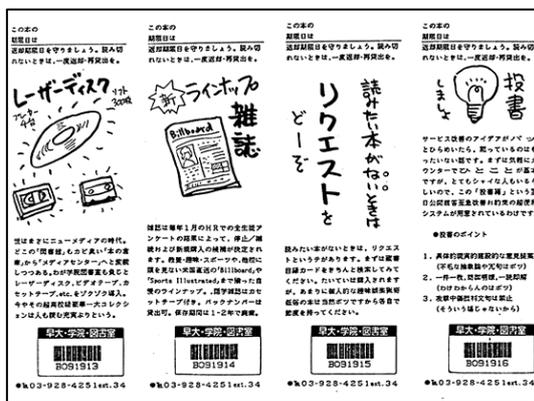
広報紙もがんばって作りました。最初は「図書室ニュース」だった。もらったらずぐゴミ箱行きですね。字ばかりで、読みにくい。

愛称をつけようと公募して学生に言わせてみましたが、僕が決めていたのは「HAL」(ハル)。名作映画「2001年宇宙の旅」に出てくるスーパーコンピュータの名前。なんでこういう名前か? IBMを一文字ずつ前にずらすとこうなるというのが名前の由来。でも言いやすいでしょう? 「図書館ニュースの今週号見た?」より「HALの今週号見た?」の方が言いやすいし親しみやすい。号数はでっかく入れること。毎号見るんだから、「77」、「78」小さいと違いがわかりませんよ。見出しも大きく入れました。「利用者サービス向上」「三大システム始動」。なんて大げさなんだ(笑)。でも、このキャッチーな見出しが大事。写真もいっぱい入れます。

盗難防止装置(BDS: Book Detection System)の機器が入った日は、校長先生と教頭先生と図書委員長に来ていただいて落成式を開催。テープカットの写真パシャパシャ。すぐ使わせてもらった。図書館の合同交流会には、女子中学生がいっぱい来ました。帰りがけにアンケートを書いてもらい自筆をそのままコピーして載せた。

見出しも工夫しました。中学生はシェークスピアを女と思っていた。見学の感想に「シェークスピアが男だと聞いた時よりもっとショック」という感想を、図書館交流会の感想として使わせてもらいました。95号まで来ました。

アメリカ留学に行く人が多かったので、向こうの図書館はどうなっているか、写真付きで情報を



▲しおりの裏面

頑張って作った「しおり」です。表面にはプロのイラストレーターの素敵な絵。これは私大図書館協会で共同制作。裏面は各館で印刷する方式。絵は自分で手書き。レーザーディスクを入れたので、お皿の絵を描いてみる。「投書しましょう」「リクエストをどうぞ」とワンポイントで文字を入れる。どうですか? 裏側に「本を返せ」と書くより、なんか楽しくなっちゃうでしょう。

持ってきてもらう。

マンガは連載です。「図書室君」。まんまでちょっと悲しいかも。「協力：漫研」。自分で描かなくていい。漫研の生徒たちは発表の場を持ちたい。ほっといても描きたい。「描いてみる？」というところすぐ食いつく。「じゃあ連載ね」と頼むと、毎月原稿を持ってきてくれる。

毎年、卒業前の3年生にアンケートに答えてもらう。その中で「入学したときに比べて、図書館は良くなりましたか？」という固定の質問を入れておく。良くなったという人が多ければ、この3年間のサービス改善について肯定的な評価が多数だというデータになる。

アンケートをやりませんか？ ちょっと面倒くさいとはいえ、集計も図書委員にやらしてもらえばいいんですよ。Excelを使える子もいるから、グラフも入れられる。これは、自慢できますよ。良くなったという人が5割もいるんです。

広報紙は先生にも配ります。校長先生も読みます。アンケート結果は、図書館が良くなっているんだというデータの裏付けになるんです。これはやらないと。生徒による評価の裏付けがなく、図書館員が「図書館はよくなっていますよ」と100回言ったって効き目はないでしょう？ だからアンケートは必要です。

本はもちろん背文字を縮小コピーして貼っていました。視聴覚資料の到着案内は別にしました。

ところで、先日僕の原点である早稲田高等学院に行ってみました。なんと建物が建て替わっていてビックリ。ピカピカの新館です。でも、大学の職員はゼロ。全面委託になっている。投書箱もなし。学校の中に公共図書館の分館がひとつある感じ。悲しいですね。建物はきれいになっていて、学校は自慢しているのですが、図書館は建物じゃない。コミュニケーションですよ。

さて、僕の実践わかりましたか？ 90年ごろの話です。みなさんの実践のヒントになればと思って紹介しました。今でも使えるものがあるでしょう。

第2部 学校図書館研修講師の経験から 略

第3部 問題提起 略

第4部 発想の転換

(編集部注) 紙面の都合で詳細は省略させていただきます。以下は概要のみ。

(1)ICUの図書館の「誰も借りてくれない本100

冊」→見せ方次第で本は借りられ動く。書架に置きっぱなしでずっと待っているだけだと誰も手に取らない。弱点を自虐ネタにする。スベリ芸も芸のうち。新聞にも掲載された。(注8)

(2)鎌倉幸子さんの『走れ、移動図書館』→図書館関係者には、真面目な人が多い。提案前に色々考えて「あ、無理だな」と諦めるから、何も起こらない。「どうせダメ」と考えない。鎌倉さんを見習ってください。嘘だと思ったらこの本を読んでください。(注9)

(3)ゲートの中にラーメン屋がある名古屋市立鶴舞図書館。飲食禁止なんて超えてる。(注10)

(4)日曜日開館している長野西高。「司書ボランティア募集。日曜日図書館開館」(注11)

(5)「びっくりカフェ」。放課後と土日の、ある時間帯に突然図書館がカフェになってしまう。ボランティアの人たちが寄付を募って、飲み物代とかお菓子代とか出してくれる。本から離れたっていい。おやつに釣られて、あるいは進路相談とか就職相談したい生徒たちがやってくる。地域社会の大人たちが相談に乗る。図書館という場を地域に開けば、生徒も地域の人と触れ合うことができる。大人も社会貢献ができて楽しい。いいことづくめ。(注12)

(6)飛騨市図書館の「官能小説朗読ライブ」フェイスブックでバンバン告知、拡散。浴衣を着た図書館のお姉さん(司書)がアブナイ本を読んでくれる。日ごろ図書館に来ないお兄さんやオジサンたちがやってくる(笑)。フェイスブックで報告。中京放送で取り上げられた。「春の本まつり」など日頃からパクれるネタを探して活用している。職場の前向きな雰囲気が大事。(注13)

(7)広瀬容子『ライブラリアンのためのスタイリング超入門』。広瀬さんは学校図書館司書だった。自分を題材にして、Before Afterでスタイリングを考え直してみませんかと呼びかけた本。おすすめ！(注14)

—午後・グループワーク—

(編集部注) 午後はグループワークが中心になるため、発表内容を記録したものを中心に掲載いたします。

1. グループ別に着席し、仁上先生のお手元のタイマーを使用して、一人一分で自己紹介
2. 指示された内容をグループで話し合う。
3. グループで作った手書きのスライドを使用して、

プレゼンテーションを行う。

※1グループは5～6人からなり、A～Nの14グループで取り組みました。

(1) ワークショップの課題

ワークショップの説明をします。

いろいろ考えましたが、今日の課題は「県立高校図書館全体のブランディングを成功させよう」とします。みなさんの場合でいうと、千葉県内の高校図書館をブランド化しようということです。そのためには、本日の参加者全員が主体として取り組むアイデアをだしてもらいます。みんなで何か取り組む。個人個人でももちろん取り組んでいただきますが、県内で共通の取り組みをしてもらいたいと思います。どんなことをやれるのか、ということをもとに考えてもらいましょう。

取り組みを開始し、発展させるために必要な高校図書館員の間での情報共有と意見交換。お悩み相談。つながり支援の仕組み・仕掛け・ツールを誰がいつまでどう用意するか等を具体的な作業工程表にまとめてください。

ツールを共有化して時間を浮かして気軽に質問ができるようなアイデアを出してもらいたいと思います。

アイデア出しの3原則は

- 1、図書館員の専門性の認知度を高める方向
- 2、一般の人がこの図書館すごいよねと思う方向
- 3、予算をつけてもらう方向

これらを発信していかなければダメですよ。高校図書館のみなさんが、自由にやることが大切。実現の可能性は考えなくて結構です。今日大事なことは、できたらいいなを考えること、夢を語ることです。できない理由は、置いておいてください。条件を整理して、どうしたらできるかを考えてみてください。

(2) ワークショップの作業要領

グループに分かれて、プロジェクトの名前、目的、数値目標、取り組む内容、期待される効果を考える。

参加者84人、各グループ6人×12グループ。

進行1名と記録1名を決めてもらいますが、自由にみんなでワイワイやっています。

各グループのテーブルにはA4の紙と、カラーサインペンが置いてありますので、それで紙芝居を作ってください。

時間は、最初に名刺交換と自己紹介。1人1分30秒×6人ですから10分ぐらいでしょうか。タイマーを回しますから、時間厳守をお願いします。チンと鳴ったら交代です。自己紹介が早く終わったら、周りの人は質問して、時間いっぱい話しグループの結束を固めてくださいね。

そのあと作業時間を60分とります。めいっばい議論してください。制限をゆるめて、ねじが外れたくらいしゃべってください。それからスライドを作り終わるまで60分。すぐに映せるように準備しておいてしてください。最後は休憩を10分とってから発表大会です。発表は準備に1分、プレゼンに1分、質問に1分とします。6人全員が一言以上しゃべってくださいね。

紙は指定された時間内なら何枚使っても結構です。時間を有効に使って、要点をはっきり伝えてください。テーマはさっきのものでもずれてもいいですよ。短い時間に要領よくピシッとしゃべると伝わることを忘れないでくださいね。



▲グループワークの様子

(3) グループ発表

■Aグループ「学校図書館が映画館」

目的：図書館に足を運んでもらう

内容：原作本のある映画を上映し、図書館の中にカフェコーナー、本の配架コーナー、レファレンスコーナーを設ける

体制：司書(専門性)、図書委員(企画立案・運営)、図書館関係職員(生徒の手が届かない所のサポート)

予算：県からの予算、文化祭の収益、図書委員会予算

期待される効果：図書館のイメージチェンジ、固定概念の破壊。静かに勉強したり本を読んだりするのではなく、楽しい映画を見られるところでもあるという雰囲気づくり

工程：9月中旬～10月上旬→上映する映画の決

定、学校ホームページへの掲載、上映の準備(プロジェクタ・音響機器など)、図書館の飾りつけ、茶菓子の購入

秋の読書週間→秋のエンジョイ LMCとして活動。上映は図書委員向けではなく、学校全体、生徒全員に来てもらう

12月下旬→千葉県 LMC 報告会 県下高校図書委員を集めて報告する

Q: LMCは何の略ですか?

A: L(ライブラリー)、M(ムービー)、C(カフェ)の略です。

■B グループ「Library Line Seven」

取り組み内容: 自分の図書館に本がない時、どこかにないかなあと思うことはありませんか? あちらこちらの県内の高校図書館から借りられればいいなあと思いませんか?

レファレンスの資料全てが各学校に揃っているわけではないので、ネットワークで検索し、あちこちから情報を得て必要な本を得られるようになります。

物流: 県立図書館、市立図書館、学校図書館、がつながるデータベースを構築し、情報を集めて発信する。「図書館を一つに!」

Q: お金はどこから?

A: 夢です!

Q: 検索はネットワークを新しく作る予定ですか?

A: : 本の所蔵情報が県の図書館だけでなく、すべての高校の図書館を同時に見るためのシステムを構築します。



■C グループ「ハッシュタグ・140字書評」

目的: 高校生と図書館の双方向コミュニケーション

数値目標: 県内一斉500ツイート(一校最低3ツ

weet)し、トレンド入りを目指す

内容:

①県内の高校が Twitter アカウントを取得

②「#140字書評」を付けてツイートを行い、コンテストを行う告知をする

③リツイート数・いいね数が最も多いツイートが優勝

以下②と③を繰り返す

予算: 0円

期待される効果: 図書館好きを増やす、SNSの偏見を正す。高校図書館の「この本いいよ」という発信を高校生が受け取って、高校生からも「この本いいよ」と140字書評に投稿。〇〇さんの書評が良かった、拡散しようという動きが出てくる。高校生が読書を元気にする。更に今まで興味がなかった高校生にも図書館に興味を持ってもらえる。トレンドになって県の財布のひもを緩ませたい。

Q: コンテストの頻度は?

A: 期間は1週間、インターバルは2、3週間。月一回の開催。

Q: 宣伝はどうやってしますか?

A: Twitterの拡散力任せです

■D グループ「高校生版本屋大賞 千葉県バージョン」

取り組み内容: 毎月図書室から Casa などの情報で貸し出し上位5冊を記録し、書店に送信。そこで月に一度計算・ランキングを発表してもらう。年に一度大賞として1~10位を発表する。

アイデアのきっかけ: いろいろなアイデアがあるが、実現のための協力が難しい、ホームページやメーリングリストは維持に労力が必要になる。この取り組みだと図書館の貸し出しベストなどの情報を書店に提供し、それによって書店の売上げがアップする。県独自のイメージキャラクターやハッシュタグを作ったりとすると夢が広がる。

Q: 本屋大賞と名前が被るので、オリジナルの名前がいいのではないかな?

A: ホームページができて、取り組みが軌道に乗ったら参加者から名前を公募したい

Q: ランキングの発表は年に一回? 高校生が読む本なので、ライトノベルに集中する可能性があるのでは?

A: ランキングの発表は毎月行う。ライトノベルに集中したとしても、書店の売上げアップにはつながる。また、二月には入試対応本のランキングなどを作り、それを各学校に買ってもらって書店

の売り上げに貢献することができる。

Q: イメージキャラクターを作るということでしたが、これも何かアイデアはあるのですか?

A: これもホームページの活動が活性化したら、一体感を生むために投票を行い、自分たちが作ったイメージキャラクターということになって、より広まっていくのではないかと思う。

■E グループ「読み鉄プロジェクト電車に乗って本を読もう」

チーム名: トレイン文庫

目的: 本愛人、活字マニアを増やす、すきま時間に本を読んでぼーっとする時間をなくす、本のリユース、手軽に借りて手軽に返却する

取り組み内容: 学校の最寄り駅に本箱を設置して、寄付で集めた本を手続きなしでいつでも借りられるようにする。

数値目標: 100駅参加、5,000冊設置を目指す。(各駅50冊)

期待される効果: 楽しいイベントを生み出す。この一冊に集う、〇〇(作家)が好きな人、スタッフの会、図書委員同士が我が駅のトレイン文庫自慢などの企画で輪が広がる

検討事項: 本をどのように集めるか→生徒会、PTA、市民団体、ボランティアに協力してもらう。待合室を利用してお話し会、読書会、駅のミニ図書館をイメージしている。

Q: 手続きなしだと本が返却されず枯渇してしまう可能性があるが、その対策は?

A: 借りて、次の駅で返してもいい。本が増えてもいいし、その辺りの管理は図書委員に任せたい。

■F グループ「I いつでも D どこでも D だれどでも I did it! プロジェクト」

取り組み内容: どんな本を選ぼうか、選書に悩んではいませんか?

困ったときはいつでも聞ける、どんなことでも解決のヒントになる、Wikipedia と知恵袋を参考にした Toshopedia

みなさんの経験を活かしていろいろな質問に答えてください。そしてベストアンサーを目指してください。

既存の司書の会のサイトをアップグレードさせた形を考えています。

工程: コンセプト決め、サイトの構築、案件提起を二か月で行い、その後の二か月で先生方から質問を募集する。来年の四月にオープンいまさら聞けない、

新人さんの悩み、ベテランの方でもわからないことを調べてすっきり解決、「IDD で、We did it!」

Q: サイト構築は誰が行うのか?

A: (チーム内の先生が)元 SE なので担当したい。Wikipedia も無料で構築できるものもあるので、できれば本当にやりたいと考えている。

■G グループ「虹色図書館」

目的: 新規の顧客(=生徒)開拓

数値目標: 来館者をカウントし、今日より明日を目指す

取り組み内容: 一週間ごとにインテリアを変更して顧客の増加を目指す。ある時は足湯で、ある時はカーペットを敷いて雑魚寝形式で、ある時は波の音などの BGM を流して、ある時は「ソファの日」として校長室からソファを拝借し、偉い人の気分になってみよう!

予算: もらえるところからもらえるだけ。借りたりするのでほとんどかからないと考えている。

Q: インテリアを変えたということは生徒にはどのように知らせるのか?

A: 曜日を設定して告知していく

Q: 飲食は OK にするのか?

A: カフェの日だけ OK

Q: ネタが尽きたらどうするか?

A: 図書委員会と顧問みんなでもう一度考えていきたい。

Q: 「この環境が落ち着けるのに!」という生徒がいたらどうするか?

A: この日はカフェの日ということで諦めてもらう。

■H グループ「あったらいいな、こんなホームページ」

取り組み内容: 部会ホームページがあなたを助けてくれます。私たちの日ごろの仕事のスキルアップの必須アイテムとなります。

<チーバ君の本探し>このコーナーでは生徒からのリクエストに対し、困ったなという場合に投稿し、他の先生から知識や情報を提供してもらうコーナーです。

<これ読んで!>司書が読んでほしい本を投稿し、いいねボタンを作り、いいねの数でランキング化します。

<新人の部屋・困った部屋>困ったことを投稿してもらいます。ポイントとしては、誰かが投稿したら、参加者全員にメールで通知が行くようになることです。

<ちょい技>その技を使えば図書館の業務が楽になるという、自分しか知らない技を投稿するコーナーです。

体制：企画委員を募集する。レイアウト等を決定してホームページ委員会に相談し、部会からOKをもらい、部会総会、司書の会総会で決定されてから始動する。司書全員がいずれかのグループに所属し、すべての人が最低でも年一回発信する。所属グループは各地区で決めてもらう。PRは部会総会、司書の会総会、各地区総会、司書だよりでします。

Q：年一回絶対発信しなくてはいけないというのがつらいと言われたらどうするか？

A：司書の仕事なので質問する側でも回答する側でもいいから年一回は発信してもらう

Q：一日一回ホームページを必ず見るようなシステムは考えたか？

A：困ったことを投稿した時はすぐに返信が欲しいと思うのでメールの通知が来るようにする設定を考えている。

■I グループ「投書箱」

目的：初任の先生の悩み解決、本の相談などをデータベースとして情報共有したい。

取り組み内容：ホームページを使って悩み相談・投書・情報の提供など項目に分け、ホームページに投書箱を作る。質問や悩み、それに対する回答を行う。投稿は匿名でもよい。

予算：「本を貸して」という投稿に対しては宅配の予算が必要。

期待される効果：初任の先生の不安解消、また異動で変わった先生の不安解消、見ているだけで勉強になる、教える側のモチベーションもアップする。

工程：すぐに部会ホームページに投書箱のページを作る。年度末までに、次年度当初の告知文書を作成する。4月には初任の先生に地区で声掛けをする

検討事項：炎上する可能性があるので利用規約を作ること。偏りのない参加ができるようにするにはどうするか考えること。

Q：検討事項を検討するのはどこの部署か？

A：まだ考えていません。

Q：答える人は一括でコンシェルジュ千葉のキャラクターにしたら偏りはごまかせるのではないか？

A：番号でユーザーの管理をすれば同じ人が発言

しているとわかるようになると考えている。

■J グループ「あの日見た満席の図書館をまだ僕たちは知らない」

目標：図書館の椅子が80席あったとすると、一日の来館者数を80名、満席にする。

取り組み内容：司書による弾き語り、実験、朗読、読み聞かせ、百人一首大会をして「おしるこ」を食べる、落語、クイズ大会などイベントを企画して行う。

体制：職員を巻き込んでいく。

予算：団費・生徒会費。

工程：委員会を開いてテーマを決め、学校内で協力者を探す。

期待される効果：集客することで生徒たちが本に興味をもつことになる。

検討事項：管理職の同意、生徒会や事務長の協力を取り付ける。日程はその時考える。学校によってできることや時期が異なるため。

Q：うちの学校は400名いるのだが、図書館に400名来たらどうすればいいか？

A：その時は立ち見で何とかしたり、数回転する。一番のポイントは管理職の同意を得ることである。

■K グループ「図書館に来てほしい オリエンテーションで先生の色々な技を共有したい」

取り組み内容：オリエンテーションでパワーポイントを使っている学校は多い。そこで新たな企画としてプロジェクションマッピングをフリーソフトで作成し、第一印象にインパクトを与える。オリエンテーションの職員が印象に残る一つの方法として絵本の読み聞かせを動画に入れて行う。図書館クイズを開催する。最初に利用規定を渡し、生徒自身が利用案内でクイズを作成し、他の生徒に見せて答えてもらう。

目標：コンテンツを部会ホームページにアップして先生方が自由に使えるようにしたい

数値目標：システム利用校は県下高校8割超を目指す。

体制：部会の研修を利用。

期待される効果：ホームページを充実させる。周知徹底を行い、図書館利用者を増加させる。司書の悩みの相談会を開催したりできるようになる。

Q：数値目標では100%ではなく80%を設定した理由は？

A：理想です、80%以上を目指していきたい。

Q：相談会はどのような形を考えているか？

A：ホームページを利用し、そこで相談会を行う。部会の研修も活用したい。

Q：オフ会は考えていますか？

A：今のところは考えていない。

■L グループ「世代交代 新しい世代の悩みは読書」

取り組み内容：<Leadを作る>図書館に来た生徒におすすめ本のPOPを作成してもらい模造紙に10冊程度貼って年三回掲示し、そこから生徒に合った選書に参考活用する。

<選書ツアーで本屋に乗り込もう！>学期に一回生徒と一緒に近くの書店へ行き、直に生徒の興味がある本をリサーチする。欲を言えば書店と交渉して、POPやディスプレイをもらいたい

<ビデオやドラマをリクエストする>人気のある映画・ドラマの上映会を年5回試験が終わった後に行う。最初に上映する映画は？→百田尚樹の『永遠の0』！

<生徒と教員の希望によりよく応えるために、選書にリクエストを活用する>リクエスト箱を常設し、毎日確認する。図書委員を通じて各クラスとのパイプ役になってもらい、宣伝する。

出されていることはみなさん周知のことが多いかと思いますが、最初に挙げたように世代交代していて新しい人たちが知らないことも多いのではないかと思います、私たちからのおすそ分けです。

■Mグループ「本のマスコットによる県内高校生読書推進活動」

目的：千葉県内の高校生の本を通じた交流を図る

取り組み内容：マスコットキャラクターを作るために各学校からデザインと名前を募集し、そのキャラクターがどんな仕事をするかを定める。

仕事内容：生徒からの質問や感想を書ける書評SNSサイトを作成し、管理することを目指す。管理は事務局を組織して行う。マスコットの認知度をアップするためにポスターや掲示用の資料、着ぐるみ、名刺など様々な展開を行う。

マスコットキャラクターや取り組みは各学校で書評SNSで出てきた内容を掲示物にしたり、TwitterやTikTokなどで拡散できたりしたらいいと思っている。その他の広め方として投書箱を設置したり、各学校で図書委員が広めたり、貸し出し上位の本を集めて紹介する。

Q：予算はどこからもらいますか？

A：広められて盛り上がったなら県から出してほし

いと思っています。

Q：読書くんのデザインコンセプトを教えてください。

A：各学校の生徒から一定の期間で応募してもらい、その中からみんなに「いいね」をもらい、一番多かったものを採用したいと考えています。名前はその後あとに公募します。

Q：ゆるキャラコンテストに参加する予定は？

A：今後検討していきたい。

Q：読書くんの仕事内容を決めると言ったが、どんな感じのものをイメージしているか

A：チーバくんの様にTwitterをやってもらって告知活動をしてもらうことを考えています

■Nグループ「プロジェクト Round 1 千葉県の図書館は一つになる」

取り組み内容：千葉県内の図書館、学校図書館をかけまわるといふ壮大な計画

「授業で図書館を使いたいんだけど、図書館って本がないよね」という先生に私たちは言いたい。

「図書館に本がないとは言わせない！」

数値目標：千葉県高等学校間ネットワーク構築100%参加を目指す

期待される効果：図書館の活性化のためには、授業で図書館を使ってもらうのが良いと考えている。そうなる本が必要で、本をたくさん収集するにはネットワークの構築が必要となる。書架が充実し、図書館の活性化につながる。生徒の学習範囲が広がり、教育活動に寄与する。実行には図書館の専門性が必要となり、専門の司書の配置を強く県に求めていると思う。司書も力を付けて校内での認知度を上げることが必要になってくる。そして教育財産を二倍、三倍と活用することができたらいいなと考えている。

予算：県費、市町村の予算。

Q：授業で使うと多くの高校で授業の進捗の影響から、特定の資料を使用したいという希望が重なってくると思うが、どのように対策するか？

A：図書館全体を巨大なネットワークでつなぐという構想なので、そんなにだぶらないのでは。地区ごとに分けることも考えている。

Q：本の配置はどのように考えているか？

A：これが一番の問題である。物流していきたいと思っているが、その予算が付くかどうか。まずできることからやって実績を上げていくしかないと思う。今後、県立図書館が一つになってしまうということで、物流はやりにくくなってきている。

県の教育財産を有効活用するために働きかけていくことが重要だと思う

Q: 私たちはBチームですが、私たちの目標と似ているので合同プロジェクトを組んでもらってもいいですか?

A: はい、どうぞ。

(編集部注) この後、参加者がぜひ実現したいと思ったグループに投票。最多票を獲得したのはEグループでした。



▲最優秀賞のEグループの発表表紙

Eグループの受賞コメント

メンバーが描いたイラストが、そのままイメージキャラになりそうだと思います。読み鉄のネーミングもトレイン文庫というチーム名もそのまま使えるように考えました。ぜひ小湊鉄道や流山鉄道で使ってほしいと思います。(大拍手)

講師講評・まとめ

発表は、イベント系が半分ですね。一つ一つイベントをやって盛り上げていこう、図書館業界の存在感を訴えようとしている。残りの半分はそれを実現しようとする仕組み・仕掛けの方。みなさんの間のコミュニケーションをどうにかしようとしている。これらは両方大事です。味方づくり戦略については今日の午前中にお話ししました。

時間が足りなかったでしょう? しかし限られた時間内でそれなりの結果を出すしかないのが人生です(笑)。今日の研修は、きっかけにすぎません。一日やってもこのくらいです。午前中の話はヒン

トであり、その中のどれかが午後のグループワークに生かしていたら嬉しいなと思います。それでも時間不足なら合宿研修しかない。

とにかくアイデアを大事にしてほしい。最初でできるかできないかで、アイデアを絞ってしまうと何も出なくなってしまう。今日出たアイデアのいくつかは、きっと実現できるはず。できない理由を探してしまう悪しき習性を捨てることが大事です。(注15)(注16)

それは図書館業界に共通しています。どこで会う人も皆同じです。すぐにできない理由を言う。できない理由を蹴散らしてでも実現するためにぎりぎりまで工夫することが大事なんです。

一回ごとに演出、改善に挑戦して失敗を教訓に変えていきましょう。いろいろな所に細かい配慮をしていきましょう。今日はいろいろな所でヒントをお見せしました。動画を使うとか、双方向性を演出するとか、そういうことを自分の職場であちこちに使ってください。先生相手に話すとき、生徒に話すとき、いろいろな所に演出という意識を持って印象を良くするように工夫してほしいと思います。

日常生活の中で「演出を意識する」ということがポイントです。何かを勉強するためには、大学院に行かなくてはいかぬ、分厚い本を勉強しなくてはならない勝ちですが、それはなかなか実現できません。でも、常日頃生活の中で見えるモノ、例えば通勤途中で見えるもの、お店に入って目立つモノ、そう言ったものにヒントを得ていけばとりたてて勉強しなくてもいいんです。暮らしの中で目を光らせていくだけです。

他人の目にどう見えるかを意識することがとても大事です。図書館業界はどうしても内向きになり、内輪の中の視線に段々慣れてきてしまいます。新鮮な視線を忘れていって、他人の目にどう見えるかということを忘れてしまう。いろいろな立場の人の気持ちを考えて、そこから見てどう見えるかを意識してアピールしていけばよい。いつか上の人から「予算を付けようか」と言ってもらえるほどの存在感を見せつけていきましょう。今日出たいくつかのアイデアを実現していきましょう。

当然ですが、そうそう簡単にうまくいくとはかぎりません。だから、めげないことが大事です。何度でも、しつこく、いろいろなやり方で攻めていってください。その時に、今日の研修を思い出してもらえればと思います。図書館員の存在感をコミュニティに認知させるには、外に出ていかなく

てはなりません。斬新なアイデアを持ち、大胆に提案していきましょう。常日頃からより意識的に、積極的にやりましょう。

来年もう一回、今日の研修のフォローアップ研修をやったとしたら、どのくらいできているか検証してみましょう。個々人のみなさんが一年間何をやったか、出たアイデアが集団として実現できたことがあったか、それを自分たちで検証する機会を設けたほうが良いと思います。(注17)

本日の総まとめに入ります。今日のテーマは「超実践 PR 講座～発想を変えて存在感をアピールする～」ということでした。ヒントはいくつも届いていると思います。レジュメの参考資料や参考サイトがたくさんあります。それを参考にしてほしい。興味があれば見てほしい。来年、みなさんに成果が出ることを、楽しみにしています。今日の事を振り返って、「いい講演だったなあ」と思って忘れてしまうのではだめです。何かやり始める人というのは、一週間以内に何か始めているし、一か月以内に何かしらの成果をあげています。それがやれる人は、その後もどんどんやっていく。今日それきりの人は右肩下がり、ゼロにどんどん近付いていきます。やる気って持続しないんです。やる気の半減期は一か月です。今日の感動を忘れないうちに小さくてもいいので何かひとつ始めてほしいと思います。

このあと、著書サイン会がありますよ(笑)。(注18)(注19)ではまたどこかで。以上です。(拍手)

■注・参考資料 (URLの参照日は2019.3.8)

- 1) 本稿は、千葉県高等学校教育研究会学校図書館部会 学校司書ならびに学校図書館関係職員秋の研修会「学校図書館のPR実践講座～あらゆる機会をフル活用する」(2018年11月27日(火)、千葉県立千葉女子高等学校大会議室)における講演の内容を再構成したものである。
- 2) 仁上幸治「わが校の図書館あんない: 早稲田大学高等学院」『学校図書館』no.489, 1991.7, pp.70-71. 巻頭口絵写真2p.
- 3) 仁上幸治「選書基準をめぐる冒険-魅力の自己組織化を演出する<柔軟化>戦略」[試論]-『現代の図書館』v.29, no.3, 1991, pp.183-192.
- 4) 仁上幸治「選書基準をめぐる冒険(2)-柔軟化に対する反動にどう対応するか-」『現代の図書館』v.33, no.2, 1995, pp.125-139.
- 5) ALA store: <https://www.alastore.ala.org/>
ALA Graphics Catalog: https://www.alastore.ala.org/sites/default/files/ALA_Graphics_Catalog.pdf
- 6) 仁上幸治「オリエンはエンタメだ! -素敵な印象を伝えるプレゼンテーションを-」『学図研ニュー

ース』No.229, 2005.3.1 (特集オリエンテーション) pp.2-5. [全文PDF]

7) 私立大学図書館協会東地区部会研究部企画広報研究分科会『図書館広報実践ハンドブック-広報戦略の全面展開をめざして-』日本図書館協会発売、2002.9.

8) 誰も借りてくれない本100冊 ICU図書館で紹介:朝日新聞デジタル

www.asahi.com/articles/ASG6K5T12G6KUTIL030.html

9) 鎌倉幸子『走れ! 移動図書館』筑摩書房, 2014.1.

<http://www.chikumashobo.co.jp/product/9784480689108/>

10) 名古屋市立鶴舞中央図書館

https://www.library.city.nagoya.jp/guide/m_tsuruma.html

11) 長野西高「司書ボランティア」募集 日曜日に図書館開館を 信濃毎日新聞 2016年6月3日金曜日

<http://www.shinmai.co.jp/news/nagano/20160602/KT160526FT1090005000.php>

12) 「ぴっかりカフェ」

神奈川県立田奈高等学校

<http://www.tana-h.pen-kanagawa.ed.jp/>

神奈川県立田奈高等学校HP「ぴっかりカフェ」

<http://www.tana-h.pen-kanagawa.ed.jp/career/cafe.html>

特定非営利活動法人パノラマFB

<https://www.facebook.com/npo.panorama2015/>

「カフェ」に「POP」 変わる学校図書館

日テレ NEWS24 2016年9月2日 17:59

<http://www.news24.jp/articles/2016/09/02/07339827.html>

13) 官能小説朗読会 飛騨市図書館

<http://hida-lib.jp/index.asp>

飛騨市図書館で官能小説朗読ライブ 市内外から70人、

市長も駆け付け 飛騨経済新聞 2016年08月27日

<http://hida.keizai.biz/headline/802/>

飛騨市図書館 館長、司書ら自身による『官能小説朗読

ライブ』遂に開催! 気になる当日の様子は…

まとめました。2016年8月27日

<http://togetter.com/li/1017148>

ユニークな企画、大好評 飛騨市図書館がアツい!

中日新聞 2016年10月25日

<http://www.chunichi.co.jp/article/gifu/20161025/CK2016102502000025.html>

中京テレビ オーダーリーさん、ぜひ会って欲しい人がいるんです!

<http://www.ctv.co.jp/audrey/?rf=fb>

中京テレビ CHUUN 【2016年11月5日放送】

<https://chuun.ctv.co.jp/player/604>

14) 広瀬容子『ライブライアンのためのスタイリング超入門』樹村房, 2018.

http://www.jusonbo.co.jp/books/217_index_detail.php

15) 仁上幸治「情報リテラシー教育と新しい図書館員像

-『新・図書館の達人』から『図書館利用教育ガイドライン』まで」『館灯』41, 2003.3, pp.39-52.

<http://ci.nii.ac.jp/naid/110007.351240>

16) 仁上幸治「デジタルリソースのフル活用へ向けて-

講習会の刷新からオンデマンド教材の開発まで-」『館

灯』47., 2008.3, pp.30-47.

<http://ci.nii.ac.jp/naid/110007.7.21747>

17) 仁上幸治「なぜ研修の成果が出ないのか-現場で

活かすための7つの秘訣-」『館灯』47, 2009.3, pp.47-54.

<http://ci.nii.ac.jp/naid/1100071177.25>

18) 仁上幸治「図書館員のための PR 実践講座-

味方づくり戦略入門-」樹村房, 2014.10.

http://www.jusonbo.co.jp/books/126_index_detail.php

19) 著作・講演の全文・関連資料の多くは仁上幸治

ホームページにて公開中。

<https://sites.google.com/site/nikamik23>

(にかみ・こうじ/2019.3.8 校了/事後修正 7.13)